

【出題意図】

文章を正しく理解した上で、具体例と関連付け、自分の考えを論理的にかつわかりやすく記述することができるかを問う。

問1

具体例を挙げることが必須となる。経済と技術の論理、言い換えれば金銭的利益や経済的価値を最優先させて社会の主導権を握ることが日本だけではなく欧米先進国に共通するものでありその歴史的経緯を理解していること。また、その傾向が今日も継続していて、深刻な環境破壊、資源の枯渇や国家間、地域間の格差を拡大している現状を理解していることが採点基準となる。

問2

具体例を挙げ、人間を取り巻く危機的状況を複数の側面から捉えることが採点基準となる。ホモ・フィロゾフィクスがとりも直さず私たち自身であると答えるか、企業トップや政治家など一定のオピニオン・リーダーであると答えるかによって論理展開は変わってくる。ホモ・フィロゾフィクスを具体定に想定し、尚且つ具体例を挙げて論理展開ができるかを採点基準とする。

環境破壊や格差の拡大はすでに数十年来解決への努力が求められている課題である。悪化の一途をたどっているこれらの課題に関心を持ち、共生と共存の危機を迎えている社会経済上の様々な問題点を理解するとともに自己と他者を取り巻く状況を理解しようとする探究心、問題解決への糸口を探ろうとする知的体力を備えているかをはかる。具体例を挙げて、論理的な文章を構築しているか、また多様な視点から与えられた課題を客観的にとらえることができるかが要点となる。

【採点基準】

大きくは、次の4点に留意する。

- ①課題文について正しく読み取れているか（文章読解力）。
- ②設問に的確に対応した解答をしているか（問題把握力）。
- ③自己の考えを論理的に構築できているか（論理構築力）。
- ④適切かつわかりやすく表現できているか（文章表現力）。